

琉球列島域におけるホオアカクチビの産卵と性構造に関するいくつかの知見

海老沢明彦

沖縄海域と八重山海域から得られたホオアカクチビの産卵と性構造について調査した。組織学的に調査した沖縄海域の標本からは産卵は4月に開始し、12月まで続くことが判った。雌としての性成熟は20 cm FL前後で開始し、26 cm FL以上でほぼ全てが成熟した。排卵痕の出現率から産卵間隔は5月から10月の間では1.0日から1.52日と推定された。6月～9月の間に得られた八重山海域の標本では、生殖腺重量指数の変化から産卵は9月にはほぼ終了することが判った。 ln (1回当たりの産卵数) ; y と ln (FL) ; x の回帰式の沖縄海域と八重山海域の間の

比較では、傾きは変わらないものの高さが有意に沖縄海域が大きくなった。本種は雌性先熟の性転換を示した。沖縄海域での最小の雄は26.4 cm FL、最大の雌は41.9 cm FLで性転換中の個体は28.0 ~ 36.4 cm FLの間で得られた。八重山海域での最小の雄は29.2 cm FL、最大の雌は32.8 cm FLであった。(A. Ebisawa, 1997. Some aspects of reproduction and sexuality in the spotcheek emperor, *Lethrinus rubrioperculatus*, in waters off the Ryukyu Island. Ichthyological Research, 44: 201-212.)